

長門市 平成30年11月14日 関 由紀夫

「本庁舎建設事業」の取り組みについて

プロジェクトの全体の概要は、現庁舎の老朽化及び狭あい化による、市庁舎の現地建て替え計画。市民の「安全・安心」の拠点として、利用しやすく、親しみのある庁舎で実現することがテーマであると説明があった。

地方自治体における積層型大規模木造庁舎のプロジェクトとなるための3つのポイント

- ① 市民の誇りとなる木造空間の創出
- ② 庁舎としての機能性、柔軟性、安全性の確保
- ③ 適材適所の地産材使用(特に長門市産杉大断面集成材による新庁舎本体)

建物全体構成は新庁舎は行政及び議会機能を持つ5階建ての新庁舎全体と、メインエントランスであり市民交流機能を持つ平屋エントランスロビーで構成される、積層型木造庁舎をアピールする。

矢板市においては、長門市と同じく庁舎が老朽化しており、建物が分散されているのが現状。

市民の利便性を考えても、市庁舎の建て替えは大きな課題と感じられた。

将来的な市庁舎整備の在り方については、市民との意見交換等を通して、どの様に進めて行ったら良いのか、話し合いが重要に感じた。

萩市 平成30年11月15日

「旧小学校舎跡地活用事業」の取り組みについて

藩校跡に建つ日本最大の木造校舎が新たな観光拠点「萩・明倫学舎」としてオープン。藩校の貴重な遺構と、跡地に建つ日本最大の木造校舎には、“あなたに伝えたい「物語」”があるとの説明を受けた。

明治維新150年記念事業の一環として、全国屈指の規模を誇った萩藩校明倫館跡地に建つ日本最大の木造校舎(昭和10年建築)を保存改修し、「萩・明倫学舎(本館及び2号館)」として平成29年3月4日に開館。

萩・明倫学舎は、萩観光の起点として、又、松下村塾とともに明治維新の原動力となった萩藩の人材育成を担った萩藩校明倫館の流れをくみ、萩教育の原点となった学びの場として整備。

矢板市においてもこうした歴史的価値のある建造物が存在する。(山縣記念館・矢板武記念館等) 廃校となった校舎の二次利用について、どの様に方向性を持って進めていったら良いのか、地域住民の方々との話し合いが重要なのではないかと感じる。

栃木県内においても多くの廃校が存在し、市民の意識調査等によると、「スポーツ施設等として活用」との声が最も多くを占めている様である。

少子化を背景に学校の統廃合が進んでいるが、矢板市においては旧長井小学校がNPO法人に貸し出され活用されているのは、非常に良い例なのではないかと感じる。

浜田市 平成 30 年 11 月 16 日

「住民参加型市場公募地方債・浜田きらめき債」の取り組みについて

浜田きらめき債とは、市民の皆様から市の事業を行うための資金を募る住民参加型市場公募地方債である。「浜田きらめき債」の発行により集めた資金は満期に達するまで、基金で運用した後、未来を担う子供達の育成のための子育てや、教育の充実に使うとの説明があった。

地域住民の関心を引く対象事業の選定として、住民の意欲を高めるような事業を優先的に充当し購入を促す。具体的な取組事業として、

- ① 「道の駅」を新たに整備する事業を対象とした。
- ② 学校や病院など、多くの市民が利用する施設を対象事業とした。
- ③ 高齢者の方々をターゲットとし、孫の世代のための給食施設整備等を対象とした

等

矢板市においても様々な事業の計画はあるものの、資金不足・財政難が大きな課題である。そこで浜田市のような、「浜田きらめき債」を発行し資金調達を図ったというのも、一案ではないかと感じた。